

# 高齢者の身体状態 体験

八幡署員、配慮する点学ぶ



見えにくくなるゴーグルや背中を固定するサポーターなどで高齢者の状態を体験する署員たち（八幡市八幡・八幡署）

八幡署は6日、署員が介護関係者から高齢者の現状を学ぶ講習会を開いた。高齢者の身

体の状態を体験する用具などを使い、配慮すべきポイントなどを学んだ。

高齢者の行方不明や保護が増える中、適切に対応できるようにと企画した。洛和会ヘルスケアシステム（京都市）の介護事業部職員が講師となり、加齢に伴う身体面の変化や、「耳元でゆっくりと話す」「視界に入ってから声を掛ける」といった心配りの仕方を紹介した。

署員は、手首や足首に重りを付け、背中やひざを固定するサポーター、視野を狭めるゴーグルなどを装着して身体機能が衰えた状態を体験。「小さな段差でも見えにくくて難しい」「人が近づくとのが分かりにくくて怖い」などと感想を共有し合っていた。（高橋道長）